

海外若手研究員受入事業府民向けセミナー関連図書



開催日 平成30年3月9日(金)

講師 ラドゥ・レカ氏

テーマ 愛国主義の具体化?幕末日本の地図皿

『佐賀県立九州陶磁文化館 館蔵名品図録』 佐賀県立九州陶磁文化館編刊 1987年

書庫 ||751.1||Ky9||

有田焼の地図皿が掲載された図録です。地図皿は、江戸後期に九州有田の応法山のあたりで量産されたようです。49頁に日本を中心に北・南アメリカ、朝鮮、ロシア、ヨーロッパが描かれた「染付世界地図大皿」(19世紀前半/天保年間)、50頁に二羽の鶴が下界をのぞき込む構図で日本地図が描かれた「染付日本地図大皿」(19世紀前半/天保年間)が掲載されています。

『源内焼：平賀源内のまなざし』 五島美術館編刊 2003年

書庫 ||751.1||G72||

本草学者、発明家として知られる平賀源内(1728-79)ゆかりの「源内焼」を集めた展覧会の図録です。源内焼は源内の出身地、香川県さぬき市志度で始まりました。地図をやきものの意匠に取り込んだのは、源内焼が最も古い例だとされています。地図皿や鉢など源内焼を網羅的に見ることができます。

『陶器講座』 第4巻 満岡 忠成、入田整三他著 雄山閣刊 1935年

書庫||751.08||To31||4

日本各地のやきものを紹介したこの本の中に、平賀源内を研究する入田整三による解説で、「源内焼」の特徴などが紹介された頁があります。源内が長崎遊学時の宝暦2(1752)年、高価で売買される交趾焼(こうちやき)などの陶器を目の当たりにし日本での製造を考えたというエピソードなどが書かれています。

『日本地図史』 秋岡武次郎著 河出書房刊 1955年

書庫||291.038||A36||

地理学者の秋岡武次郎が、日本の各時代に製作された日本図について内容・特徴を詳細に調査し、その推移を分析しています。手書地図から印刷地図まであらゆる地図が網羅的に取り上げられています。94頁以降で装飾兼用行基式日本図を解説し、九谷焼や伊万里焼、源内焼などの皿に施された日本地図を紹介しています。